

2016.11.27 聖別会

# IMMANUEL

インマヌエル  
中目黒キリスト教会  
聖別会マンスリー

2016年

< 聖化の豊かさを味わう > 「聖化の説教」(25)

「健全なバランスを保って生きる」

インマヌエル深川教会・川嶋直行牧師

始めに：ホーリネス(きよめ)はホールネス(包括性)に通じる。

1. 知恵は力づける：「知恵は町の十人の権力者よりも知恵者を力づける。」(19節)

- ・本書における知恵とは幸せな生活を送るための実際的知恵この知恵は、(町の権力者が十人集まって助けてくれるよりも)私たちが力づける
- ・この知恵は、種々選択に悩む時、光を与える。新約においては、御霊の知恵に匹敵。

2. 順境逆境は神から：「順境の日には喜び、逆境の日には反省せよ。これもあれも神のなさること。」(14節)

- ・順境逆境も神から与えられたものなので、感謝と反省を忘れないようにしよう。
- ・片方だけで、人は成長しない。両方の割合は神に任せ、両者をセットとして受け入れよう。

3. 不条理に深入りするな：「私はこの虚しい人生において全ての事を見た。正しい人が正しいのに滅び、悪者が悪いのに長生きする。」(15節)

- ・長寿は祝福の徴であるが、かといって長寿者が皆祝福されている訳ではない。
- ・義人が苦難に遭う現実にあて、不条理に深入りせず、神の裁きに委ねるのもきよめの道である。

4. 正し過ぎるな：「あなたは正しすぎてはならない。知恵がありすぎてはならない。悪すぎてもいけない。愚かすぎてもいけない。」(16-17節)

- ・品性の様々な要素の中で「義」だけが突出して憐みが欠けていたら、健全ではない。
- ・正しいことを言うときは、少し控えめが良い。

**5 . 言葉の受け取り方 :**「地上には善を行ない、罪を犯さない正しい人は一人もいない。人の語る言葉に一つ心を留めてはならない。」(20-22 節)

- ・人の言葉に一つ心を留めないほうが良い。人は間違ふことが多いものだから。

**6 . 健全なバランスを保て :**「一つをつかみ、もう一つを手放さないがよい。神を恐れる者は、この両方を会得している。」(18 節)

- ・義と憐みのバランスが必要。その模範がイエス。十字架で義の要求と憐みの心が一つになった。
- ・義に過ぎていたパウロは復活のイエスにあって義と憐みを会得した。それがガラテヤ 2 : 20
- ・十字架の前に謙り、イエスと一体となる時、義と赦しの両者を会得する。